



100周年記念誌作成余録

神戸大学 経済経営研究所
助教 村上 善道

昨年度より100周年記念誌作成を行っておりますので、そのことに関して今回はお知らせしたいと思います。

基礎となる資料などについて

100周年記念誌作成を引き受けて以来の不安事項の一つは、果たして資料が十分にあるかということでした。これは、『100周年記念誌作成を担当している』ということを使うと、いろいろな方からよく「資料は残っているのですか?」と言われることでもあります。

結果としては、既に編集・刊行済みのまとまったものとしては65周年(1984年)に当研究所が作成した『経済経営研究所65年の歩み』(以下『65年の歩み』)と神戸大学が100周年を迎えるにあたって作成した『神戸大学百年史』部局史の当研究所に関する箇所があげられます。これらに加えてより一次資料に近いものとして『経済経営研究所要覧』(以下『要覧』、1952年から1998年まで)、『研究活動報告』(1999年以降)、『経済経営研究所概覧』(以下『概覧』、1990年以降)があげられます。『要覧』は当時の研究所に関してまとまった形で最も包括的で詳細な情報を含むものです。今回最も頼りにしたものといえますが、毎年刊行されるようになったのは1992年からで、以前は2-3年おきでした。なお戦前の商業研究所や経営機械化研究所に関しても一覧や要覧が発行されており、当研究所に残っているものがありました。なお、昭和1970年代以前の『経済経営研究所要覧』は大学文書史料室にも残っておらず、当研究所に残されているものが現存する唯一のものであると思われます。さらに一次資料として当研究所の教授会資料も残されているようですが、これに関して私一人ですべて調べることは現実的ではありませんので、以下で述べるように、何らかの疑問が生じたときに確認する手段として用いています。大学全体の『神戸大学要覧』も必要に応じて参照しています。

また各教員の退官時に国民経済雑誌や経済経営研究所年報に退官記念号が組まれるとそこにその教員の写真、略歴、研究業績などが掲載されており、これも貴重な情報源になっています。ただし定年退職したすべての教員に関してこれがあるわけではありません。その

他、『凌霜』、『神戸商大新聞』、『神戸大学新聞』、『神戸大学学報』などにも当研究所の記事が掲載されているものがありました。これらは大学文書資料室で近年、項目ごとの検索ができるデータベースが公開されているので助かりました。また当研究所の附属センターの歴史、経営機械化研究、新聞記事文庫などはそれぞれについて書かれている論文や記事がいくつかありましたので大変助かりました。

大まかな印象としましては、『65年の歩み』は資料編を含めて大変充実したものになっています。しかし『65年の歩み』と『要覧』で同じ事項に関して、例えば建物・設備の竣工、所内の組織の設置などの年月日などが異なっているものもありました。これらに関しては、教授会資料の確認をお願いし、それでも不明であったものに関しては私の判断で例えば、不一致の多い建物の竣工は日付の表示は諦めて年月のみにする、また『要覧』に記載がなく教授会資料でも確認がとれなかった事項は『65年の歩み』に掲載されていても今回の記載を見送るなどの措置を取ることにしました。なお『65年の歩み』を作成するために収集した資料があるのではないかと思います、そのようなものは原稿の下書きなどを除いては残されてはいませんでした。

一方、1990年代半ば以降各種セミナーなどの情報も研究所のホームページでも掲載され、1999年から『研究活動報告書』が作成されるなど、この時期からは情報が豊富なのですが、1985年から1990年代後半までの約10年に関しては、『要覧』ないし『概覧』しか情報がなく、かつ『要覧』の発行が毎年になるのが1992年以降であるため情報の収集に困難が伴っています。なお、在籍教員関係のデータは、研究所事務の協力を得て人事記録から作成しました。

その他、書かれた資料ではありませんが、当時在籍された教職員の方々の記憶、それをお話いただくヒアリングも実施し、貴重な資料になりました。実際にお話しをいただくことは、様々な事項の間を整理し、これらの書かれた資料から流れを組み立てる上で、大変貴重な機会でした。ヒアリングにご協力いただいた名誉教授、元教職員の方々に深く御礼を申し上げます。

写真について

できるだけ、多くの写真を載せたいと考えているのですが、必ずしもすべての年代やこちらが欲しいと考える事柄に関して写真が残されている状況ではありません。比較的しっかりと残っているものは、記念式典を行った創立40周年、55周年、65周年、80周年の時の写真になります。その他、『65年の歩み』作成の影響なのか、1970年代半ばから1980年代前半に関して当研究所の建物、行事、外国人の来訪などに関して多くの写真がしっかりと項目別にファイリングされて残されていました。しかし、その後はファイリングはやめてしまったようで、平成に入ると、一部のセミナーや震災の写真や未現像のネガフィルム

が未整理のまま残されているにとどまっていた。セミナーや講演会の写真はもっと残っているのではないかと期待したのですが、限られたものしか残されていませんでした。これに関しては、ヒアリングに来てくださった名誉教授の先生方をお願いをして、個人で所有されている写真を借りさせていただきました。また基本的なものとして歴代所長の写真がありますが、これもファイリングされているのは藤田正寛所長までで、それ以降は、『要覧』作成用に残されたネガフィルム、前述の退官記念号、ホームページにのっている写真などを組み合わせてなんとかつなげました。これらの写真の整理と検索は、本年1月から当時のことをご存知の元事務長の海野興治さんがアドバイザーとして来ていただきましたので、大変助かっています。

また今回の記念誌作成に当たって、全く別の媒体として、社会科学系図書館の坂西文庫にある戦前の卒業アルバムの存在を浜口所長が教えてくださいました。戦前の商業研究所には、専任教員は基本におらず神戸商業大学（神戸高等商業学校）と事実上一体でしたので、このアルバムに研究所に関係した教員や研究所の建物の写真が多数残されていました（実は今回最初に行なった作業が、この卒業アルバムから研究所に関係する写真を一つ一つスキャンしていくことでした）。これは『65年の歩み』がおそらく使用していない資料であり、例えば、兼松記念館竣工前の商業研究所の写真などは、今回の記念誌で多くの方が初めて目にするようになるのではないかと思います。戦前の卒業アルバムは、時代が下がるととても充実していくのですが、戦争の影響なのでしょう、1930年代後半から急に簡素なものになり、1941年を最後に作られなくなったようです。しかし、その時代は研究所にとっては、1941年に中南米経済調査室と経営計算研究室が相次いで設置、1944年に経営計録講習所が設置され、さらに経営計算研究室が官制化された経営機械化研究所が設置されるなど、大きな出来事がいくつもあった時代でした。そのため、残念ながらこれらに関係する写真は戦前の卒業アルバムからとることはできませんでした。幸いにも経営計算研究室、経営機械研究所に関しては前述の通り、『要覧』が残されており、ここに写真を見つけることができました。おそらく、これも、今までほとんど目にふれたことがないものではないかと思います。

その他、南米文庫や戦前の『商業研究所講演集』、欧文紀要 *The Journal of the Kobe University of Commerce* など、現物が残されているものは、デジカメでの撮影を行いました。

今回の記念誌がめざすもの

今回の記念誌で何に留意し、何を指して作成しているかということに関して、所長の方針を受けて、私なりに理解し、注意を払っていることを記しておきたいと思います。第一に、当たり前のことではありますが、誤りを少なくすることです。書かれたものは「事実」として残りますし、特に今後研究所が150周年、200周年などを迎え、また記念誌が作ら

れることになるのであれば、今回の100周年記念誌は徹底的に読まれることになるでしょう（『65年の歩み』がそうであるように）。記載にあたっては前述の通り、書かれたこと、あるいは聞いたことをそのまま転記するのではなく、各種資料で細かく確認をとるということにこだわってはいますが、今回は私が中心になって行っているため、チェックしきれないものが残ってしまうことがあるかもしれません。そのため、何名かの名誉教授、元教職員の方々に依頼をして、できあがった原稿を読んでいただいています。作業に協力いただいている方々に深く感謝すると共に、最後まで品質管理に努めたいと思います。第二に、今回の記念誌は、他の社会科学系の附置研究所と異なる当研究所が持つ特色を明確にし、そこにその歴史的根拠を付与するというミッションが強くあると理解しています。その意味では、単に事実を記載するというよりは、しっかりとメッセージをもたせるという観点から記事の内容作成を行う、というになります。より具体的に言えば、現在、研究所が掲げている文理融合（計算社会科学や歴史的資料のデジタル化）、国際性といったものは、決して突然思いついて掲げたものではなく、戦前からの長い伝統と歴史を受け継いだものであるということを明確なメッセージとして出す役割がこの記念誌にはあると理解しています。またこれらは、「国際都市神戸」を基盤に「学理と実際の調和」を掲げる本学の伝統と理念とも一致するものであり、当研究所はこれを体現してきた（少し大げさな言い方をすれば本学の中でも最も神戸高等商業学校・神戸商業大学のオリジナルな伝統と特色を今日まで引き継いでいるのが当研究所である）ことを示す、ということでもあると思います。第三に、今回この記念誌は100周年記念事業の一つとして作成され、ご寄附をいただいた方々に贈呈するものであるということです。従って、より平易で分かりやすく、またレイアウトとしても美しいものとなることを目指すということになります。それに関しては各方面のプロのお力もいただきながら作成を進めております。

なお、今回収集した資料やデータを管理して今後役に立てていただければ、ということも一言述べおきたいと思います。『65年の歩み』当時との大きな違いは、現在はデータ化が大きく進んでいるということになります。今回紙媒体であったものをデジタル化して作成した様々な資料に関して、今後も更新されていくであろうもの（例えば在籍教員一覧、専門委員会・研究部会一覧、学術講演会・神戸経済経営フォーラムといったもの）は今後、創立記念誌を作成する際には、今回のように一から多大な苦勞をして資料の収集やデジタル化を行うのではなく、今回のものを継続して管理いただき、是非書きする形で用いていただければと思います。また（戦前のものを含めて）『要覧』をはじめおそらく当研究所にしかないと思われる資料や写真の現物が今後も散逸したり破棄されたりしないようにしていく必要もあるでしょう（今回、可能な限りのデータ化を行いました、人員不足ですべてデジタル化ができていないわけではありません）。研究所のこのような資料やデータについて、誰がどのように管理していくかということに関して決まった規則やルールがあるわけではないようですので、このことに関して、この機会に必要な措置や対策のためのよいアイデアが出され、それが具体化していくことを願っています。

最後になりますが、この記念誌が、ご寄附をいただきました方々をはじめ、皆様のご期待に添えるものとなりますように最後まで努力を続けることを記して、このエッセイを終わりたいと思います。